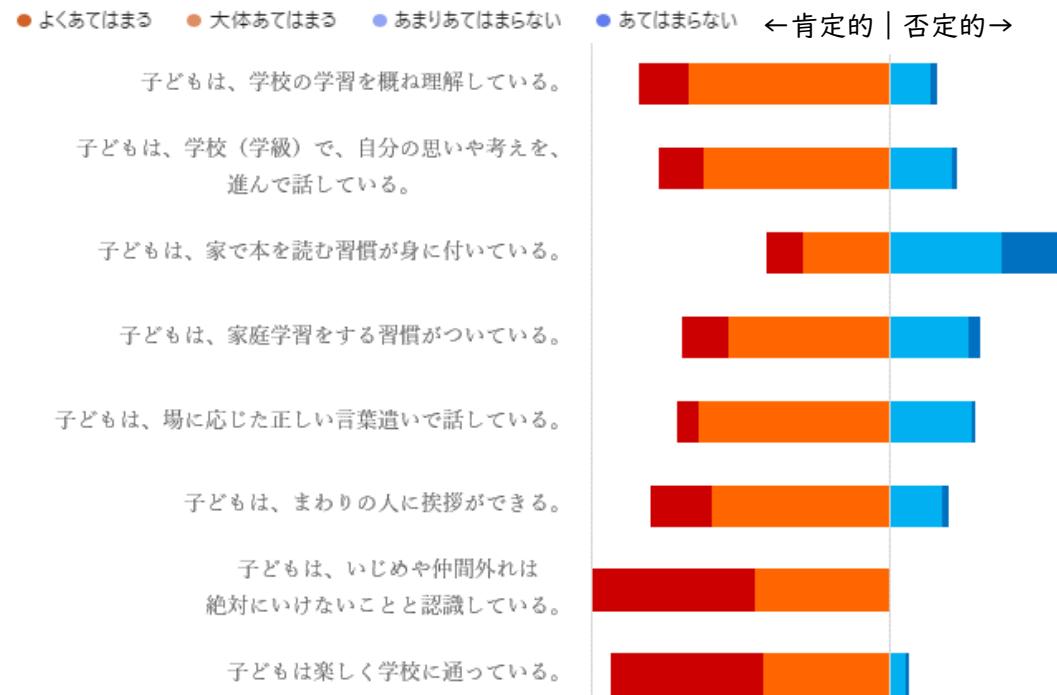




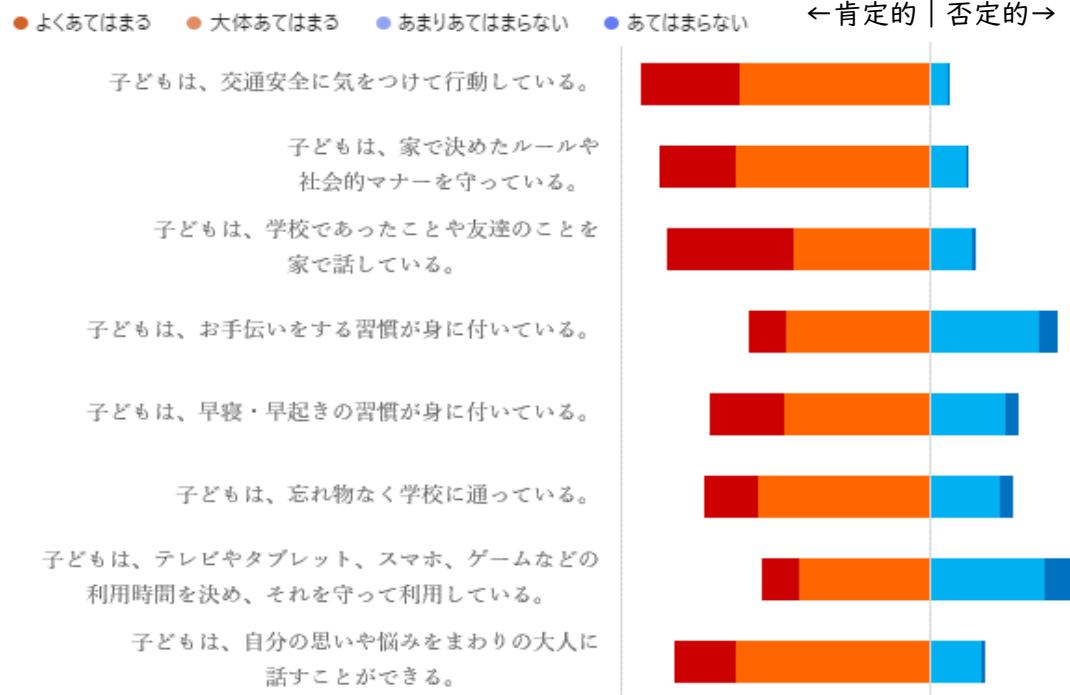
R7上半期学校評価アンケート結果号
令和7年10月3日(金)
京都市立待鳳小学校 校長 牧 紀彦

学校教育目標「考えを深め会い、夢に向かって挑戦する待鳳の子」



保護者

学校評価のアンケートへのご協力ありがとうございました。質問項目を変え、2回も保護者の方からご回答いただき、大変申し訳なく、また、ありがとうございます。いただいたアンケートの回答をもとに、今後の学校づくりの参考にさせていただきます。12月ごろに、下半期の学校評価アンケート(下半期は1回)を実施する予定です。引き続きご協力いただきますようよろしくお願ひします。



今回は、保護者の方への学校評価アンケートの項目に変更があったため、7月と8月の2回にわたくてアンケートを実施致しました。お忙しい中にも関わらず、たくさんの方にご協力いただき誠にありがとうございます。

今回実施いただいた2回のアンケート項目についてそれぞれ考察をしていきたいと思います。

保護者アンケート1回目の結果

グラフの左端(濃い部分)が肯定的なご意見(よくあてはまる、大体あてはまる)、右端に行くにつれて、否定的なご意見(あまりあてはまらない、あてはまらない)となっています。

肯定的な意見が目立つ項目としては、「子どもは、いじめや仲間外れは絶対にいけないことと認識している」「子どもは楽しく学校に通っている」「子どもは、交通安全に気をつけて行動している」「子どもは、家で決めたルールや社会的マナーを守っている」などが挙げられると思います。どれも、社会で生活していく上で大切な内容になっています。「いじめが絶対にいけないという認識がある」という質問項目については、100%のご家庭で「あてはまる」とお答えいただいている。学校だけでなく、各ご家庭でしっかりとお子さんに「いじめの問題」についてお話をいただいているのだと思います。日々の学校生活の中においてもご家庭の人権意識の高さが子どもたちを通して伝わってきます。同じ方向を向いて子どもたちの成長を見守っていただき大変ありがとうございます。「交通安全」や「ルール・マナー」についても肯定的な意見が多くありました。本校での様子を見ていても、子どもたちはとても素直で、「いけない」と言われたことやルールにあることを守る意識が高いです。最近は子どもたちが職員室に用事があって入ってくる際に「失礼します。○年○組の△△です。□□の用事できました。」ととても礼儀正しくあいさつをしてくれることが増えてきました。普段は親しみのあるくだけた言葉遣いをしている児童も、しっかりと場所やタイミングを考えて、言葉を選んでいる姿がさすがだなど感じます。また、学校での生活の中で、勉

強や社会のルールを学ぶだけでなく、概ね「楽しんで」学校に通っている児童が多いことが大変うれしいです。今後も、子どもたちが「楽しい」と思えるような取り組みの充実を図っていきたいと思います。

次に、否定的な意見の多かった項目について見ていきたいと思います。

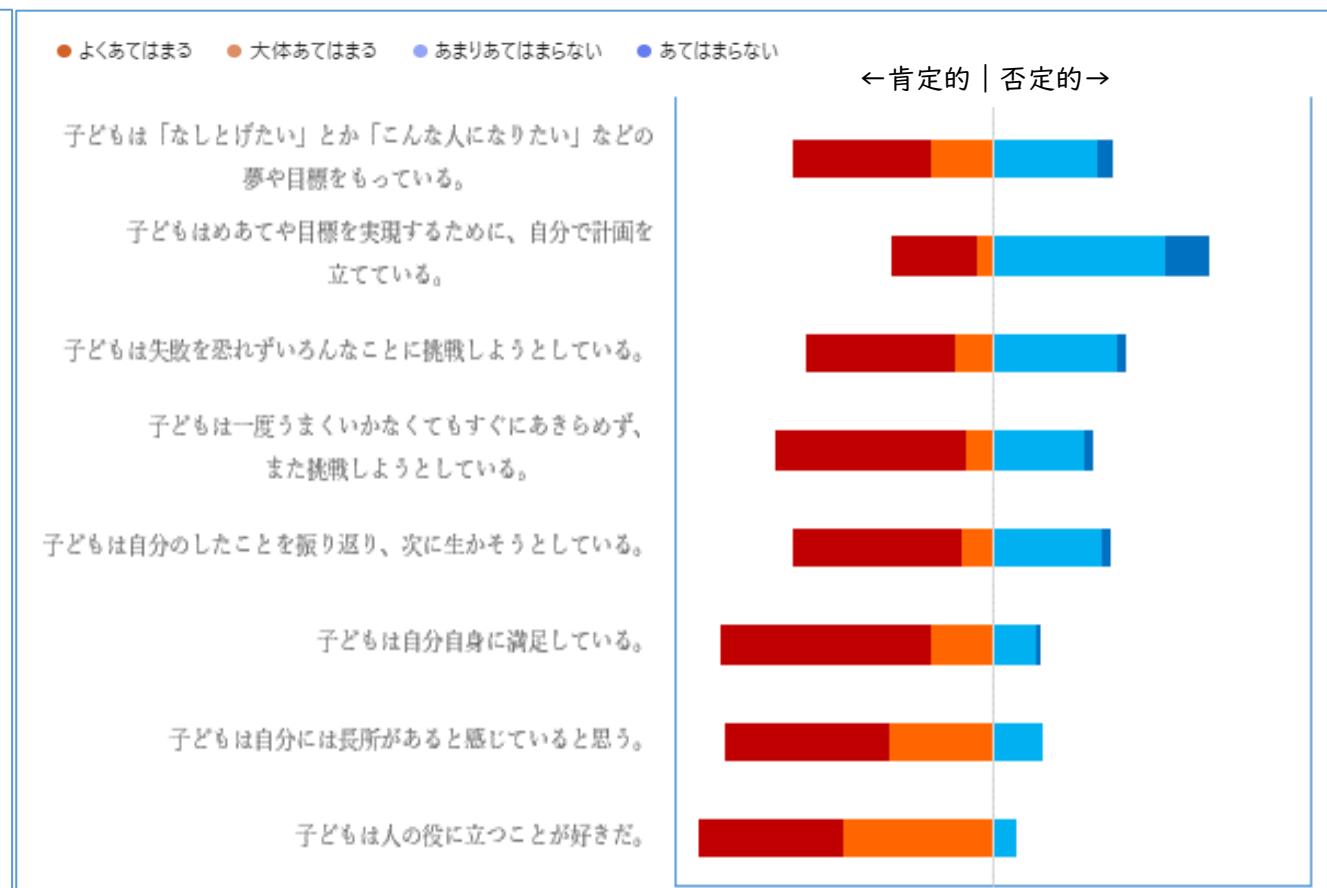
「子どもたちは家で本を読む習慣が身についている」(肯定的 40.6% 否定的 59.3%)

「子どもは、お手伝いをする習慣が身についている」(肯定的 58.6% 否定的 41.4%)

「子どもは、テレビやタブレット、スマホ、ゲームなどの利用時間を決め、

それを守って利用している」(肯定的 54.6% 否定的 45.4%)

以上の3項目からは、子どもたちが家で過ごす時間の中で、お手伝いや読書をする時間よりもテレビやスマホを見る「スクリーンタイム」の方が多くの傾向にあることを示していると考えられます。「スクリーンタイム」は興味関心を広げるきっかけになったり、たくさんの情報を手に入れたりすることもあり、一概にデメリットばかりとは限りません。しかし「令和6年度全国学力・学習状況調査」の結果を文部科学省が分析したところ、学校外で1日あたりのスクリーンタイムが2~3時間こえたあたりから学力が明らかに下がる傾向にあることが示されていました。さらに保護者のテレビゲーム、SNS、動画視聴の時間が長いと子どもも同じように長くなるという相関関係も明らかにされています。一方で、家でのお手伝いは「時間の感覚」や「生活習慣」を身に着けるのに役立ち、読書は、ご存じの通り語彙力の向上や読解力の向上につながるといわれています。日々お忙しくされている中で、ついつい便利なスマートフォンに頼る時間が大人も長くなってしまいますが、ぜひ子どもたちとお手伝いを通して交流する時間や、読書を通して会話をする時間を意識して増やしていただき、子どもたちの健やかな成長を促していただければと思います。(裏面へ)



2回目のアンケートではアンケートの項目を「学校教育目標（育成をめざす資質・能力）」に沿った形しております。（昨年度と同様の形式）

*育成を目指す資質・能力

- ・自分事として考える力
- ・人と関わり合って、考えを深める力
- ・失敗を恐れず挑戦する力
- ・自分たちで」「自分たちが」考えて行動する力
- ・体験・経験を知識と結びつけて考える力
- ・自己をふり返り、次に生かす力

保護者アンケート2回目の結果

肯定的な意見が目立つ項目としては、「子どもは日常のいろんなことに「なぜ?」「どうして?」などの疑問を感じることが多い」「子どもは自分の考えをおうちでよく話している」「子どもは自分自身に満足している」「子どもは自分には長所があると感じていると思う」「子どもは人の役に立つことが好きだ」などが挙げられると思います。子どもは日常のいろんなことに疑問を感じるという項目が保護者アンケートでも次ページに示す児童アンケートでも肯定的な意見が多いところをみると、待鳳小学校の子どもたちは好奇心が強く、「知りたい」という意欲が高いのだと思います。それはきっとご家庭で、子どもたちの「知りたい」という欲求を満たしていただいている結果なのではないかと思います。「なぜ?」「どうして?」といった疑問は、学びの原動力になり、充実した学習活動へつながります。待鳳小学校では、「社会科」や「生活科」、「総合的な学習の時間」を軸として、さまざまな教科で子どもたちの疑問から始まる、問題・課題解決的な学習の充実を目指して授業づくりに取り組んでいます。今後も子どもたちの「なぜ?」を大切にして授業の改善をしていきたいと思います。その他の肯定的な項目を確認すると、家庭で安心感をもってすごしている子どもの様子や自己肯定感の高い子どもの様子が伺えます。子どもたちが、失敗を恐れず挑戦したり、自分たちで主体的に行動したりするためには、上手くいかないことがあったとしても受け入れてもらえ

るという安心できる場所「セーフゾーン」が必要不可欠です。今回の保護者アンケートや児童アンケートの結果からは、多くの児童にとって家庭が「セーフゾーン」となっているようことがうかがえます。学校でも引き続き子どもたちが失敗を恐れずにのびのびと自己を高められるよう、前向きで肯定的な声かけをしていきたいです。

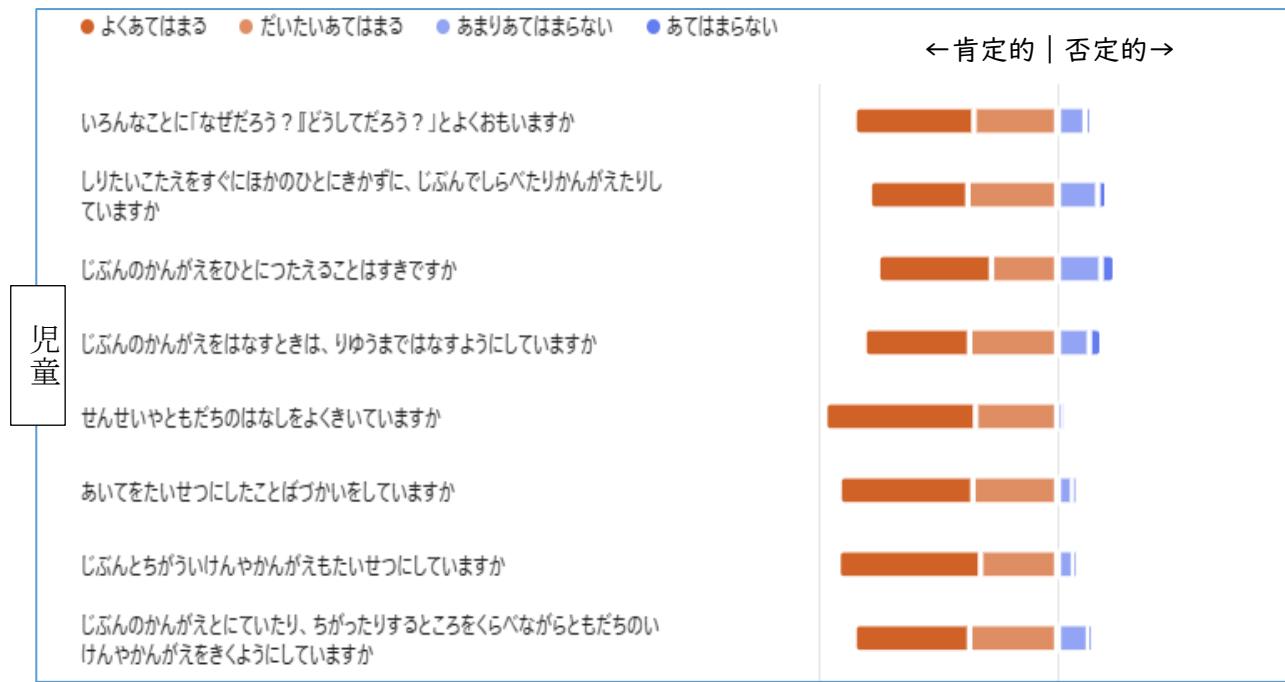
次に、否定的な意見の多かった項目について見ていきたいと思います。

「子どもはめあてや目標を実現するために、自分で計画を立てている」（肯定的 32.2% 否定的 67.8%）

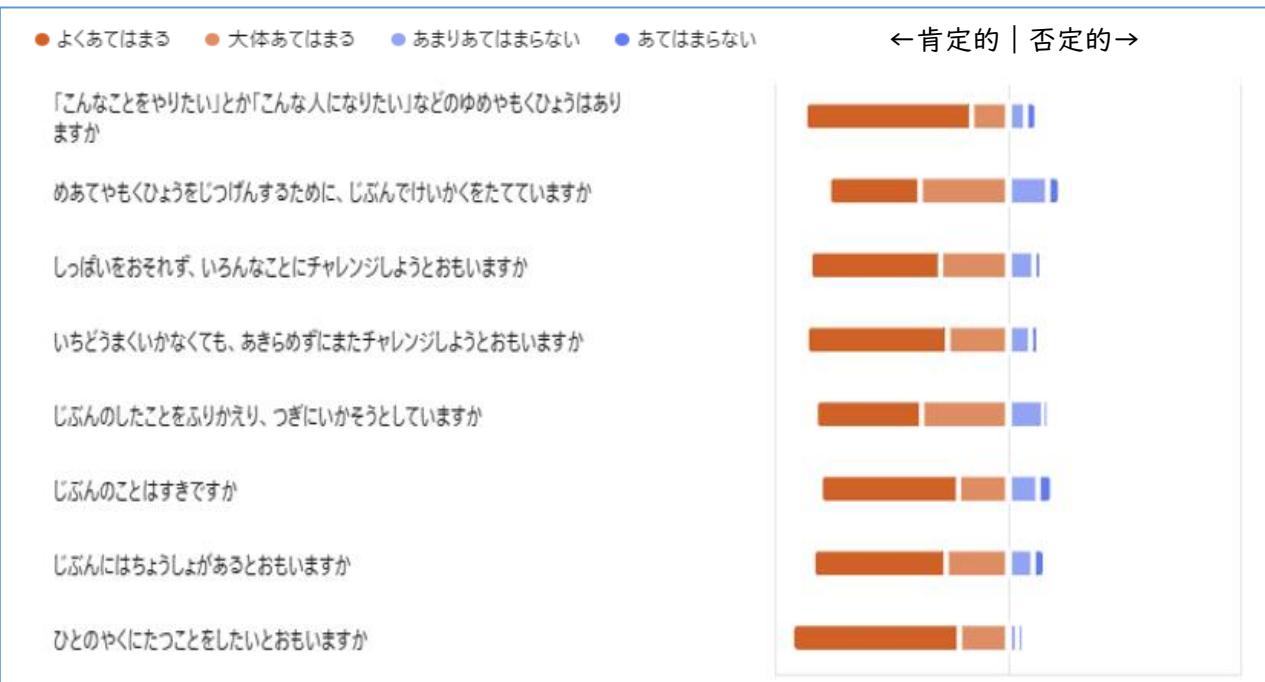
「子どもは知りたいことについて、よく自分で調べたり考えたりしている」（肯定的 61.5% 否定的 38.5%）

「子どもは自分のしたことを振り返り、次に生かそうとしている」（肯定的 63.2% 否定的 36.8%）

「目標を実現するために自分で計画を立てる」ということは、子どもたちが今後成長しながら生きていく上で大切な力の一つだと思います。しかし、小学生段階において身に付けるのが難しいことの一つだとも思います。世界的に見ても日本の小学生の学力は高いですが、「自分で学習を進める自信がありますか」という質問項目に対する回答の数値が低いことが課題として挙がっています。本校でも次ページの児童アンケートを確認すると、他項目よりも否定的にとらえている児童が多いことがわかります。現在本校がその課題解決に向けて取り組んでいることは、次ページに記載しておりますのでそちらをご確認いただければと思います。「知りたいことをよく調べる」「振り返り、次に生かそうとしている」という項目については、保護者アンケートに比べ、児童アンケートでは肯定的にとらえている児童が多いようです。おそらくですが、できていると感じる基準が大人と子どもで少しずれているのかもしれません。ついつい子どもたちに対して我々大人は、高い基準で物事を求めることが多くなりがちです。もどかしく感じることも多いのですが、子どもたちが前よりも頑張ったことを認めながら、少しずつステップアップしていくように導いていくことも大切なのだと思います。（次ページへ）



児童



児童アンケート結果

アンケートの数値を見ていると、待鳳小の子どもたちは、「聞く姿勢に優れ、人の役に立つことや相手を大切にすることを大事にしている」ことがわかります。普段の様子を見ても感じる通り、とても素直で素敵な姿です。一方で、「自分の考えを周りの人に伝えたり、自分の考えをしっかりもって、目標や計画を立てたりすることには苦手を感じている」ようです。「自分のことは好きですか」(肯定的 81%、否定的 19%)という質問に対する回答も、否定的な意見が他の質問に比べ若干多いことから、自分に自信をもち切れていない児童もいるように捉えられます。子どもたちがより「主体的」になるために、今後も模索し続けていく必要性を感じます。

現在一つの方策として、「子どもたち自身で決定する場」を意図的に設定していくということを考えています。例年4年生～6年生が取り組んでいる「クラブ活動」の形を改め、今年度は「待鳳探究タイム(TTT)」にしました。今まででは、ある程度決まったクラブ活動の中から、子どもたちが入りたいクラブを選択して取り組んでいました。今年度はそれぞれの児童が1年間を通して達成したい目標を決め、その目標を達成するために必要なことを計画しながら、興味のあるクラブに取り組む活動にしました。また、普段の授業では「自由選択学習」に挑戦する授業も増やしています。これは、単元のめあてや課題を子どもたちが設定し、それぞれにめあて達成のための方法や解決方法を計画し、友だちと協力しながら進めていく学習です。主に社会科や生活科、おおとりタイム、仲よし学級の生活単元学習などで取り入れています。自己決定したり、自分で計画したりする活動は、頭を働かせる機会が多く、子どもたちにとっては難しく感じることもあるかもしれません、教員がサポートしながら「自分でやりとげた」という経験をたくさんして欲しいと考えています。そういう実感を多くの場面で得る経験を通して、子どもたちの自己肯定感が高まり、より一層主体的に活動できるようになるのではないかと期待しています。

保護者自由記述欄について

保護者アンケートの自由記述欄で、多くのご意見をいただきしております。すべてを紹介することは難しいため、いただいたご意見をコンパクトにまとめ、カテゴライズしてお示ししたいと思います。

学校行事について

- 花背で自分やクラスの成長を感じたようです。仲がよい雰囲気がよかったです。
- 保護者同士の繋がりがあまりないのがさみしい。参観、懇談、親参加のイベントがもっとあれば楽しい。
- 参観日が頻繁にあり、授業中の様子や友達との関係性など学校での様子を知る機会が多く安心できる。

学校体制について

- E組さんがあることや図書ボランティアがあることも、大変良いと感じている。
- 交換授業はとてもいい取り組みだと思う。算数は1組の先生で、国語は2組の先生が、学年全体を観ることで先生方は教材勉強や授業準備の手間が削減できるように感じる。子どもたちにとっても自分の担任の先生以外に関わり合いのある先生が増えるので、困った時に相談しやすかったりするのではないか。
- 待鳳小学校は、主権者教育を意識した取り組みなど先生方が色々工夫されているのを感じている。

学習について

- 漢字の書き取り(何度も書く)の宿題を増やしていただけたらなと思う。
- 毎日の宿題が、ドリルや作文の他に、自主学習が2ページなのは、他校と比較しても多いようだ。
- 学校での漢字小テストについては時間割表への記載に加えて、口頭でも数日前にアナウンスがあると、復習の時間をとりやすい。
- 勉強を嫌がるようになり、家庭学習は宿題だけでも時間がかかるてしまう。
- 授業参観では国語や算数の授業の様子をよく見ているが、英語の授業も楽しく受けているようで、親自身は小学校で英語の授業を受けた経験がないので、どのような様子なのか、是非見たい。

その他

- 学校へ行く際の荷物が重い。
- いつも楽しそうに子どもが学校に通っている。
- 猛暑で、放課後遊びができない日が続き友達と過ごす時間が減り残念。
- 子どもたちが自分たちで考えて行動する活動が沢山あるのが良いと思う。
- 紛失物や忘れ物が大変多く対応に窮している。
- 入学当初、通学が不安そうな時に、中学年くらいの女の子が「大丈夫ですか?一緒に教室まで行きましょうか?」と聞いてくれることが何回かあった。学校全体に人に優しく接する雰囲気があるようで安心。
- 子どもたちに寄り添った丁寧な取り組みや保護者への細やかな心配りに感謝している。

貴重なご意見をありがとうございます。すべてのご意見に添えられるわけではないですが、宿題の在り方、子どもが楽しくなる授業の在り方、荷物の整理などについては、学校としても問題を整理し、適宜改善をしていきたいと考えております。

アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願ひします。